

介護職員初任者研修カリキュラム(通信課程用)

1 職務の理解（6時間）

<到達目標・評価の基準>

研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

多様なサービスの理解

- 介護保険による居宅サービスの種類とサービスが提供される場の特性を理解する
- 介護保険による施設サービスの種類とサービスが提供される場の特性を理解する
- 介護保険外のサービスの種類とサービスが提供される意義や目的を理解する

介護職の仕事内容や働く現場の理解

- 各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する
- ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	3時間	<講義> ○介護保険による居宅サービスの種類とサービスが提供される場の特性を理解する ○介護保険による施設サービスの種類とサービスが提供される場の特性を理解する ○介護保険外のサービスの種類とサービスが提供される意義や目的を理解する
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	<講義> ○各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する ○ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する 【演習】 ○事例検討 ① 認知症のAさん ② 腰椎の圧迫骨折で入院していた1人暮らしのBさん ③ 1年前に脳梗塞で右片麻痺になった妻と2人暮らしのCさん ・事例①②③はどんなケアが行われているのか？グループワークを行い討議することにより援助の視点を学習する。
合計	6	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

<到達目標・評価の基準>

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。

人権と尊厳を支える介護

- 介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ
- 介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション）について理解する
- 利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する

自立に向けた介護

- 介護における自立とは何かを学ぶ
- 「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する
- 介護予防の考え方について理解する

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
①人権と尊厳を支える介護	5時間	1. 5 時間	3. 5 時間	<講義> ○介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ 【演習】 ○利用者の権利が侵害される例についてグループワークを行い討議する。 <通信> ○介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション）について理解する ○利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する ≪添削課題ポイント≫ ○ICF、QOL、IFCについて ○高齢者虐待防止法について ○個人情報保護法について ○日常生活支援事業について
②自立に向けた介護	4時間	0時間	4時間	<通信> ○介護における自立とは何かを学ぶ ○「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する ○介護予防の考え方について理解する ≪添削課題ポイント≫ ○自立支援の意義について ○個別ケアについて ○主な廃用症候群について
合計	9	1. 5	7. 5	

3 介護の基本（6時間）

<到達目標・評価の基準>

介護職に認められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。また、介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。

介護職の役割、専門性と他職種との連携

- 介護環境の特徴（施設と在宅の違い、地域包括ケアの方向性など）を学ぶ
- 介護の専門性について考え、専門職に求められるものは何かを学ぶ
- 他職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。

介護職の職業倫理

- 介護職が持つべき職業倫理を学ぶ
- 日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する

介護における安全の確保とリスクマネジメント

- 利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ
- 利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ

介護職の安全

- 介護の特徴を踏まえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ
- 介護職の起こりやすいところとからだの病気や障害について学ぶ
- 介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1. 5 時間	1. 5 時間	0 時間	<講義> ○介護環境の特徴（施設と在宅の違い、地域包括ケアの方向性など）を学ぶ ○介護の専門性について考え、専門職に求められるものは何かを学ぶ ○他職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。
② 介護職の職業倫理	1. 5 時間	1. 5 時間	0 時間	<講義> ○介護職が持つべき職業倫理を学ぶ ○日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する 【演習】 ○高い倫理性と社会的責務について、グループワークを行い討議する。
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1. 5 時間	0 時間	1. 5 時間	<通信> ○利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ ○利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ 《添削課題ポイント》 ○利用者のリスクの回避について ○感染対策の3原則について

④ 介護職の安全	1. 5 時間	0 時間	1. 5 時間	<通信> ○介護の特徴を踏まえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ ○介護職の起こりやすいところとからだの病気や障害について学ぶ ○介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ ≪添削課題ポイント≫ ○介護職自身の健康管理について ○燃え尽き症候群について
合計	6	3	3	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

<到達目標・評価の基準>

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。

介護保険制度

- 介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ
- 介護保険制度の基本的な仕組みを理解する
- 介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ

医療との連携とリハビリテーション

- 介護職と医療行為の実情と経過について理解する
- 在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する
- リハビリテーションの理念と考え方について理解する

障害者総合支援制度及びその他の制度

- 障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みを踏まえて学ぶ
- 障害者自立支援制度の基本的なしくみについて理解する

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護保険制度	4. 5 時間	1. 5 時間	3 時間	<p><講義></p> <p>○介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ</p> <p>【演習】</p> <p>○介護保険制度の意義、目的についてグループ討議し理解を深める。</p> <p><通信></p> <p>○介護保険制度の基本的な仕組みを理解する</p> <p>○介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ</p> <p>《添削課題ポイント》</p> <p>○要介護状態・要支援状態の区分について</p> <p>○介護保険制度における都道府県の役割について</p>
② 医療との連携とリハビリテーション	3時間	0時間	3時間	<p><通信></p> <p>○介護職と医療行為の実情と経過について理解する</p> <p>○在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する</p> <p>○リハビリテーションの理念と考え方について理解する</p> <p>《添削課題ポイント》</p> <p>○医行為について</p> <p>○リハビリテーションの定義について</p>

③ 障害者総合支援制度およびその他制度	1.5 時間	0 時間	1.5 時間	<通信> ○障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みを踏まえて学ぶ ○障害者自立支援制度の基本的なしくみについて理解する ≪添削課題ポイント≫ ○障害者総合支援法の自立支援給付と生活支援事業について ○介護給付が支給されるサービスについて
合計	9	1.5	7.5	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

<到達目標・評価の基準>

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限とすべき（とるべきでない）行動例を理解する。

介護におけるコミュニケーション

- 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する
- 介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する
- 事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する

介護チームにおけるチームのコミュニケーション

- 介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ
- チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ
- 会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 介護におけるコミュニケーション	4時間	3時間	1時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する ○介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する ○事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語的チャンネルと非言語的チャンネルについて体験する。体験を通じ、良好なコミュニケーションの取り方を理解する。 <p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する ○介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する ○事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する <p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションの基本について ○バステックの7原則について

<p>② 介護におけるチームのコミュニケーション</p>	<p>2時間</p>	<p>0時間</p>	<p>2時間</p>	<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ ○チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を具体的な方法について学ぶ ○会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ <p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○記録の目的について ○サービス担当者会議について
<p>合計</p>	<p>6</p>	<p>3</p>	<p>3</p>	

6 老化の理解（6時間）

<到達目標・評価の基準>

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。

老化に伴うところとからだの変化と日常

- 老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する
- 老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する
- 多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する

高齢者と健康

- 高齢者に多くみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する
- 高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3時間	1.5 時間	1.5 時間	<講義> ○老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する ○老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する 【演習】 ○加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化が日常生活にどのような影響を及ぼすのかをグループで討議し理解する。 <通信> ○多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する 《添削課題ポイント》 ○社会的環境の変化と心理について ○高齢者の体温について

② 高齢者と健康	3時間	1.5 時間	1.5 時間	<p><講義></p> <p>○高齢者に多くみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する</p> <p>【演習】</p> <p>○高齢者に多く見られる疾病において、症状の変化に気づくための留意点についてグループにて討議し理解を深める。</p> <p><通信></p> <p>○高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する</p> <p>《添削課題ポイント》</p> <p>○高齢者に多い病気について</p> <p>○介護保険の特定疾患について</p>
合計	6	3	3	

7 認知症の理解(6時間)

<到達目標・評価の基準>

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。

認知症を取り巻く状況

- 「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する
- 問題視するのではなく、人として接することを理解する
- できないことではなく、できることをみて支援することを理解する

医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理

- 老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する
- 認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ
- アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ

認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活

- 認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ
- 認知症の人の行動と環境との関係について理解する
- 病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点を持つことについて理解する

家族への支援

- 家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性について学ぶ。
- 家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 認知症を取り巻く状況	1時間	0時間	1時間	<通信> ○「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する ○問題視するのではなく、人として接することを理解する ○できないことではなく、できることをみて支援することを理解する 《添削課題ポイント》 ○認知症ケアの視点について

② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.5時間	1.5時間	1時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する ○認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ <p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ <p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の分類について ○血管性認知症の危険因子について
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間	1.5時間	0.5時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ ○認知症の人の行動と環境との関係について理解する <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の人に必要環境を工夫する視点をグループにて討議し理解を深める。 <p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点を持つことについて理解する <p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の人に必要環境について
④ 家族への支援	0.5時間	0時間	0.5時間	<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性について理解する ○家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ <p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護保険サービス利用によるレスパイトについて
合計	6	3	3	

8 障害の理解（3時間）

<到達目標・評価の基準>

障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考えについて理解し、介護における基本的な考え方を理解する。

障害の基礎的理解

- 「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ
- 国際生活機能分類（ICF）に基づきながら、「障害」の概念について理解する
- 障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）について理解する。

障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識

- 障害の原因となる主な疾患を理解する
- 障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する
- 障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ

家族の心理、かかわり支援の理解

- 家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ
- わが国に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
① 障害の基礎的理解	1時間	0時間	1時間	<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ ○国際生活機能分類（ICF）に基づきながら、「障害」の概念について理解する ○障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）について理解する。 <p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICIDH と ICF、WHO について ○リハビリテーションの定義について
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.5時間	1.5時間	0時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○障害の原因となる主な疾患を理解する ○障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する ○障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語障害のある人の生活するために、どのような機器を使用し生活するうえでの工夫をしているかをグループにて討議し理解を深める。

③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5 時間	0時間	0.5 時間	<通信> ○家族支援は、家族介護の肩代わり支援でないことを学ぶ ○わが国に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ <<添削課題ポイント>> ○家族支援について
合計	3	1.5	1.5	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

<到達目標・評価の基準>

- 理論や法的根拠に基づく介護の基本的な考え方を習得する。
- 介護技術の根拠となる「こころのしくみ（学習、記憶、感情、意欲等）」に関する知識を習得する。
- 介護技術の根拠となる「からだのしくみ（人体の構造や機能）」に関する知識を習得する。
- 安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立および自立を尊重し、もてる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等で生活を支える介護技術や知識を習得する。
- 生活の各場面での介護について、事例を通じて、生活支援を提供する流れを理解し、技術を習得する。
- 利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を習得する。

Ⅰ 基本知識の学習	項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法 通信課題の概要
	① 介護の基本的な考え方	3時間	1時間	2時間	<講義> ○「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する <通信> ○「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかを理解する ≪添削課題ポイント≫ ○介護という言葉の始まりについて
	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4時間	4時間	0時間	<講義> ○学習と記憶に関する基礎的な知識を学習する ○感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する ○自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的な知識を理解する
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間	4時間	0時間	<講義> ○骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する ○神経の種類と、その働きを理解する ○眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官の働きを理解する
Ⅱ 生活支援技術の講義・演習	④ 生活と家事	4時間	0時間	4時間	<通信> ○生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ ○家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとってはどんな意味があるのかを理解する ○家事援助とは何かについて具体的に理解する ≪添削課題ポイント≫ ○生活援助について ○家事援助のポイントについて

⑤ 快適な居住環境整備と介護	3時間	0時間	3時間	<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○安心して快適に住まいするために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ ○住まいにおける安心・快適な室内環境の仕方について学ぶ ○高齢者や障害のある人が生活する中で、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ <p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事故の防止について ○介護保険の対象となる住宅改修について
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○整容の必要性と、整容に関連したところとからだのしくみを理解する ○利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○衣服の着脱の基本的手順 ○ベッド上での寝巻の着脱
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12時間	12時間	0時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連したところとからだのしくみを理解する ○利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護のための技術を身につける ○心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体位交換 ○車いすの操作法 ○ベッドから椅子への移乗 ○歩行の介助 ○視覚障害者の誘導 ○ボディメカニクスを活用した動きの基本

<p>⑧ 食事に関連したところ とからだのしくみと自 立に向けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事の必要性と、食事に関連するところとからだのしくみを理解する ○利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける ○心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事介助の技法 ○増粘剤の使用法と体験
<p>⑨ 入浴、清潔保持に関連 したところとからだの しくみと自立に向けた 介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○入浴清潔保持がもたらす心身の効果と、入浴に関連するところとからだのしくみを理解する ○利用者本人の力を生かし、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける ○心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○清拭、部分浴の方法の実技体験
<p>⑩ 排泄に関連したところ とからだのしくみと自 立にむけた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>6 時間</p>	<p>0 時間</p>	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみを理解する ○利用者本人の力を活用し、気持ちのよい排泄の介護を行うための技術を身につける ○心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ベッド上でのおむつ交換 ○差し込み便器の使用法

	⑪ 睡眠に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	6時間	0時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○睡眠の必要性と、睡眠に関するところからだのしくみを理解する ○心地よい安眠を支援するための知識と技術を身につける ○心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○シーツのたたみ方、コーナーの作り方 ○シーツ交換
	⑫ 死にゆく人に関連したところからだのしくみと終末期介護	3時間	0時間	3時間	<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○終末期のとらえ方を学ぶ ○終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ ○死に直面したときの心理状況について理解し、このころの変化の受け止め方を学ぶ <p>《添削課題ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○終末期のバイタルサインの変化について ○キューブラーロスによる死を受容するまでの5段階のプロセスについて
目生活支援技術演習	⑬ 介護過程の基礎的理解	6時間	6時間	0時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護過程の目的と意義について理解する ○介護過程の展開プロセスについて理解する ○チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する
	⑭ 総合生活支援技術演習	6時間	6時間	0時間	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ○事例を通じて、利用者のところからだの力が発揮できない要因を分析する ○事例を通じて、利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する ○事例を通じて、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解する <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事例検討を行い、利用者本人にとって適切な支援技術をグループ内で討議し理解を深める
合計		7 5	6 3	1 2	

10 振り返り（4時間）

<到達目標・評価の基準>

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことに対して再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り	3 時間	<p>< 講義 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修を通じて学んだこと ○ 今後継続して学ぶべきこと ○ 根拠に基づいての要点 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研修を通じて学んだことや今後継続して学ぶべきことに対して、グループにて討議し意見交換をする。
② 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1 時間	<p>< 講義 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 継続的に学ぶべきこと ○ 研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージができるような事業所等において実例を紹介 ○ 介護現場を紹介した視聴覚教材の視聴 ○ 講師の体験談 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 就業に向けての現在の思いをグループワークにて共有し、今後につなげる
合計	4	
全カリキュラム合計時間	130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、余白に「追加」等の表示をすること。